

平成 30 年度

地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課 区民協働・生涯学習担当

平成 30 年度実施 地域力応援基金助成事業 活動報告書 もくじ

平成 30 年度スタートアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
描こうよみんな	自然や空間を絵手紙で表現し、近しい人に郵送する、展示会・展示会場で体験会をする。	3
Chatty+	Chatty+Room	4
地域学習教室いるか	友達以上、恋人以上、みんなの帰る場所になる！地域学習教室いるか	5
一般社団法人 ERINA ダンスアカデミー	こころと身体を健康をサポートする事業「おおた健康づくり応援サポーター」養成講座・公開講座	6
大田区ポッチャ協会	住みやすい地域をめざして、ポッチャでつながろう！	7
おおたコマプロジェクト	ものづくり体験イベント	8
ママカフェ久が原	子育て支援全般、親と子で楽しめる文化事業・多文化交流事業の開催	9

■継続（平成 29 年度より実施）

団体名	事業名	頁
嶺町こども食堂 みんなでごはん	子ども食堂	10
コミュニティ・カフェ・「遊とぴあ」	高齢者居場所づくり事業	11
特定非営利活動法人都会で炭焼きプロジェクト	福祉施設における炭生産作業拡大と自立への取り組み	12
非営利公益団体 久が原落語友の会	定期落語会「くがらく」の開催	13
特定非営利活動法人打楽器コンサートグループ・あしあと	こころに響く絵本つくっちゃお♪	14
オレンジ茶房「縁（えにし）」	オレンジ茶房「縁（えにし）」	15
おおた まちと子育て はぐ組	妊婦さんに伝えよう「地域で子育てを！」～妊娠・産後に役立つ情報マップ制作と活用～	16

平成 30 年度ステップアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
CONNECT	もしも…その時…ー知って、備えて、繋がってー	17
hanatomo	花で繋げる未来の輪プロジェクト	18
うのき水辺の楽校協議会	多摩川の自然と遊ぼう！自然から学ぼう！	19
茶道キャラバン喫茶去	茶道で日本文化を体験しよう	20
一般社団法人地域パートナーシップ支援センター	2020 オリンピック・パラリンピックへ Go!おおたの魅力 PR プロジェクト	21
おおた生涯学習世話人会	大田区に生涯学習社会の振興・定着と元気高齢者の地域社会参加促進事業	22
一般社団法人おおた助っ人	「子どもの未来を創る『キャリア教育』」	23
PSI 池上自主防犯パトロール隊	安全安心なまちづくりと平和で安全な「ふるさと」づくり活動	24

■継続（平成 29 年度より実施）

団体名	事業名	頁
おおもり・まちづくり協議会	地域まるごとケアのまちづくり～住んでみたい街 NO1 といえる大森のまちづくり～	25
英会話同好会 from OTA	ネットワーク型ホームステイ/ビジット	26
一般社団法人木谷ウォーキング研究所	高齢者の介護予防・仲間づくりのためのポール de ウォーク楽校の全区的展開	27

平成 30 年度ジャンプアップ助成

■継続（平成 29 年度より実施）

団体名	事業名	頁
特定非営利活動法人ユースコミュニティー	六郷ユースクラブ	28

地域力応援基金への寄付について

自然や空間を絵手紙で表現し近い人に郵送する

事業名 描こうよみんな

助成額

27万円

◆地域での課題

【障害者も健常者も共に歩いていける社会を望む】

リハビリが必要な弱い立ち場でも努力している実態を知ってほしい。元気な方にも一緒に活動して欲しい。その実現を目指す。



会員が揃う機会がなかなかなく、この日も来てくれた人だけで写真を撮りました。先生も含めて26人の会員になりますが、この日はこれだけでした。

◆基金事業概要と達成した成果

【障害者も健常者も巻き込む事に成功した】

会員の中に色々な方がいらっしゃる事は嬉しいことだ。

友人関係で始め障害者以外のかたもいるが、それ以外にも健常者もチラシを見て来てくれて喜んでいる。趣味の世界でどのくらい誰が続くかわからないが、楽しく活動していきたいと思います。



◆これからの取り組み

【上手になりたい気持ち強い集団だから大丈夫】

補助金申請を辞めてしまった。お金のことで不安はあるがどうにか頑張っていくと思っている。みんな絵手紙が上手になりたいのだ。その気持ちがあれば困難も乗り越え、進んでいけるだろう。

団体名 描こうよみんな

会員数 26人

設立

平成30年2月

団体の活動目的
活動実績

障害者も健常者も共に絵手紙を通じて楽しく活動する。毎月1回の活動はもとよりそれぞれが家でも課題の準備を考える、描く、本を読む等してきました。基本はこれです。頑張っていきます。

孤育てママをなくし、地域の子育てママを心地よくつなぐ！

事業名 **Chatty+** (ちゃっていーぷらす)

助成額 10万円

◆地域での課題

子育てにモヤモヤしているママが心地よく気軽に参加できるコミュニティが少ない大田区。サークル的な「強制」がなく、いつでも、安心安全な雰囲気、悩めるママのよりどころとして、ママの心地よいつながりを作るお手伝いをしたい！



◆基金事業概要と達成した成果

2018年2月から12月まで、10回の座談会とワークショップを計画通りに開催し、モヤモヤママ達からたくさんの嬉しいフィードバックを得ることができました。毎度新しい参加者が増え、リピーターができたり、運営に協力してくれるママが現れたり、回を重ねるたびに新しい主催者自身が確実に新しい気づきを得ています。

Chatty+ワークショップ ~ママのための虹色じぶん軸~
私のキャリアってなに？どんな虹が出来上がるかな？

◆これからの取り組み

2019年も引き続き定期的な座談会やワークショップを開催し、参加ママに【対話から生まれる新しい気づき】を提供し続けたいです。



Chatty+Room Vol.9

いつも一緒のママ友同士では話づらい内容も、ここなら安心して真剣に語れます。

助成金をもっと活用し、円滑でスムーズで「団体運営」をしたいと思っています。

団体名 Chatty+

会員数 5人 設立 平成30年1月

団体の活動目的
活動実績

育児・キャリア・家族関係・人生、、、さまざまなテーマについて、モヤモヤを持ち寄ったママ同士の「おしゃべり」の場を提供。Chatty+はおしゃべりに加え、自分と向き合うワークやママ同士の会話から生まれる、モヤモヤ解決のヒントとなる「気づき」を提供します。

子どもの笑顔は、地域に担い手を増やす！

事業名

友達以上、恋人以上、みんなの帰る場所になる！地域学習教室いるか

助成額

40万円

◆地域での課題

【地域に、若い担い手、不足】

核家族化などで地域での助け合いが減り、住民同士が地域を創るという共通目標を持ちづらくなった。それに伴い、地域活動の担い手の高齢化や若い世代の参加減少という課題がある。まずは子どもを対象に、地域に関わりを持つ入口を用意し、活動している。



クリスマス会！年長クラス、小学生クラス合同で開催！ケーキを作ったり、ビンゴをして楽しみました。

◆基金事業概要と達成した成果

【「出会う人が多いと嬉しい」と実感】

・毎週(土)に「年長クラス」「小学生クラス」、毎週(火)には「中高生向け自習の場」をオープン。また、月1回、「楽しく生きるつながり論」で多世代で対話の場を設けている。

・毎週会うことも、たまに会うことも、町であうこともある。住んでいる町に、仲間がいることをみんな日々実感していることが、最大の成果と考えている。



特別教室★稲刈り！

親子、スタッフ、施設の利用者さんと行きました！

◆これからの取り組み

【いい輪をすこしずつ広げていきたい】

・クラスの継続と交流

クラスを越えた交流の機会を設けたい

・特別教室のさらなる活用

地域の人と子ども達、若者を繋ぎたい

・大人と若者をつなぐ場をつくる

いい大人との出会いを若者に作りたい

・規模を広げていきたい

より多くの人にいるかが届くように！



毎月開催★楽しく生きるつながり論

高校生～大人まで！多種多様な集まり、対話の機会♪

団体名

地域学習教室いるか

会員数

25人

設立

平成30年 4月

団体の活動目的
活動実績

年長～大学生を対象者に、若者の地域参加、地域の担い手育成をめざし、「社会貢献事業」「居場所事業」「学習支援事業」の3事業を実施。同世代異年齢の仲間づくりと地域での役割を持ち、貢献意欲向上と実践的能力の育成をめざす。また、子ども達にとって、学生との関わりは、地域のロールモデルと出会い、参加意欲向上だけでなく、自分の進路を考えるきっかけになると考えている。

ユーモアを持って健康に生きよう～Don't worry. Be happy～

事業名 心と身体の健康をサポートする事業

助成額 20万円

◆地域での課題

- ・体や体の動かし方について正しい知識を得られる場が少ない
- ・地域でつながりをもてる機会が少ない
- ・介護予防や社会参加をサポートする人材が不足している

◆基金事業概要と達成した成果

自分らしい生活を送る上で重要な健康づくりと他者との交流を目的として以下3つの事業を実施した。

●サポーター養成講座：健康づくりと担い手育成を目指した講座を行い、コミュニケーション方法やストレッチの技術等、健康づくりに必要な知識習得の場づくりを行うことができた。

●遊ぼう祭 2018：100名を超える参加者が集い、ゲームやダンスを通じた交流を行った。協力団体との連携、協働によって世代や分野を超えたつながりが得られた。

●健康講座：体やこころの健康について学ぶことで、参加者一人ひとりの健康意識の向上につながった。

◆これからの取り組み

- ◇1月26日・2月2日 第2回『おおた健康づくり応援サポーター養成講座』
- ◇2月17日 第2回知って得する『おおた健康講座』

おおた健康づくり応援サポーター養成講座

正しい体の動かし方や講座運営に関する知識習得の場づくりを通じて、地域での健康の輪を広げる取り組みです。



遊ぼう祭 2018

「遊びを通して健康になろう!」をテーマに実施した、健康づくりと地域交流のイベントです。



公開講座～知って得する! おおた健康講座～

健康に関する学びとプレベンションダンスの体験を通し、お一人おひとりの健康意識を高めていく講座です。



団体名 一般社団法人 ERINA ダンスアカデミー

会員数 5人 設立 平成29年1月

団体の活動目的
活動実績

介護予防・他者との交流を目指したプレベンションダンスの普及を通じ、一人ひとりの健康意識の向上及び健康の輪づくりを目的とした活動を行っています。

パラリンピック正式種目のボッチャをみんなで楽しもう

事業名 住みやすい地域をめざして、ボッチャでつながろう！ 助成額 22万円

◆地域での課題

少子高齢化・核家族化で地域の間人関係も希薄になりつつあります。子供から高齢者・障がい者も一緒に楽しめるボッチャを通して地域交流を図れる場を設けたい。障がいの度合いによっては「ランプ」という補助具を使用するが、それを大田区の物作りの技術を活かして製作したい

◆基金事業概要と達成した成果

事業概要…子供から高齢者・障がい者を含めたすべての地域住民を対象とし、地域の交流や活性化・地域住民の体力向上・健康維持を図るために児童館・小学校・町会自治会・高齢者施設などで体験教室を開催する・

成果…児童館2館・小学校2校・町会自治会関係1団体・高齢者施設1社とつながり、体験教室を開催した。

◆これからの取り組み

学校・児童館・高齢者施設・町会自治会関係で体験教室を開催し、どの年代でも楽しめる競技であることを実感し、ボッチャを通して地域交流を図れると感じた。各年代をどのような場所で、どのような形で交流可能かを検討。

「ランプ」もより良いものを考えていきたい。



「萩中集会所」にて体験教室
羽田地区の町会自治会の方を対象に体験教室を開催。



「ふれあいはすぬま」にて体験コーナーと交流大会
スマイルかまた主催イベントの体験コーナー・交流大会に協力。

団体名 大田区ボッチャ協会

会員数 12人・1団体 設立 平成30年4月

団体の活動目的
活動実績

目的：地域住民にボッチャの振興と普及を図り、ボッチャを通じて他世代交流・地域の活性化・青少年健全育成に寄与する。
実績：町会・自治会・学校・児童館・おおたっ子広場・高齢者施設などでの体験会を開催。高齢者施設の新任研修会への協力。高齢者施設でのボッチャ大会の協力。連携団体と合同の体験教室やイベントの開催。

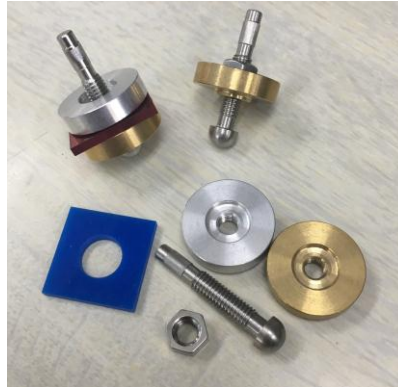
おたのものづくり、町工場のパワーを地域に

事業名 ものづくり体験イベント

助成額 40万円

◆地域での課題

- ①ものづくりの町大田区といわれますが、「普段の生活の中で町工場に触れられる機会は少ない。」「興味はあるのだが、どこに問い合わせていいかわからない」との地域からの声があったこと。
- ②町工場の後継者不足に伴う将来の事業の担い手の発掘。



◆基金事業概要と達成した成果

各種イベントへの参加や小学校の夏休みわくわくスクールへの講師派遣等を通し、新しいイベントへの誘いや企画運営サポート依頼を受けるようになった。また、自主企画イベントでは工具を使用したワークショップを実施。より町工場を身近に感じてもらうことができ、参加者の反応からも楽しいだけではなく、現場を体験してもらう要素が必要であると感じられた。同時に、(一社)大森工場協会の協力も得られ運営力が強化された。

ワークショップで使う「おたこま」アルミ・ステンレス・樹脂の比重のちがうパーツをねじの仕組みを用いて組み立てる。『おたのお土産 100選』にも認定。



◆これからの取り組み

中高生へアプローチを強化することで就職先の選択肢の提供とともに、ものづくりの楽しさを体験してもらい、ワークショップのボランティア協力要員を募る。

こどもたちだけではなく、商店街や高齢者施設との連携イベントにも挑戦する。また、いままでできたつながりを活かして他の団体のつなぎ役となれるようにする。

組み立てたコマの対戦や長回しの挑戦他、型を抜いて作るオリジナルパーツやねじ穴をあけたり、名前を刻印したり、ものづくり体験ワークショップも実施。

団体名 おたこまプロジェクト

会員数 15人

設立 平成29年2月

団体の活動目的
活動実績

【目的】

- ①ものづくりの楽しさを子供たちに伝えます。
- ②ものづくりで地域振興に貢献します。
- ③ものづくりで問題解決のお手伝いをします。
- ④ものづくりを通し大田区魅力を発信します。

【実績】

ものづくりワークショップの企画・運営、各種イベントへの出展。

ママカフェが原はママをサポートします！

事業名 子育て支援全般、親と子で楽しめる文化事業、多文化交流事業の開催

助成額 40万円

◆地域での課題

【孤独にならない子育て環境をつくる】

知り合いがいない、言葉が通じない、孤独な子育て。ちょっとした悩みを話せる場所、助けを求められる友達、ご近所さんと出会える場所を提供することにより、安心して支え合える地域づくりを目指しています。



◆基金事業概要と達成した成果

- 多くの乳幼児連れのママたちの出会いの場を提供でき、ご近所での仲間作りに協力できた。
- ロゴやチラシデザインをプロの方に依頼できた。
- チラシを大田区の各施設に置いてもらえることにより、活動を広く知ってもらうことができた。
- 今まで呼びたかったが資金不足で招くことが出来なかった講師の方をお呼びしたり、子育てや日々の暮らしや健康に役立つ講座を開催することができた。

主にクオリスキッズくがはら保

育園1階にて開催しています。



12月11日
ママのための朗読教室@こあら村



◆これからの取り組み

【分け隔てなくママたちをサポートする】

地域との交流を持つことで、これから母となる若い女性たちも含め、子育てに明るい未来を思い描ける手助けをなる講座、イベントを開催していく。

- 発酵調味料の講演会
- 世界のお茶会
- 子ども連れ可能な映画上映会
- 防災クッキング
- 安全な虫よけスプレー作り など



団体名 ママカフェが原

会員数 4人 設立 平成27年6月

団体の活動目的 子育て世代の居場所づくり、情報提供の場。また世代を超えた地域の交流の場として、楽しく学び、かつ子育ての悩みを分かち合える場所、孤独な子育てを解消し必要な情報、困ったときの預け先や助け合えるご近所との繋がりづくりを応援する。

みんなでごはんをいっぱい！

事業名

助成額

10万円

◆地域での課題

品川児童相談所において、大田区は近隣の品川・目黒などより虐待相談件数が圧倒的に多い。子育てストレスの軽減として食事をしながら気楽に相談できる場が必要とされている。また、中高生、高齢者の孤食も心配である。

◆基金事業概要と達成した成果

ほぼ毎月1回最終週に子ども食堂を開催。栄養を重視した、野菜たっぷりの手作りメニューを提供している。地元農家とも協働し、朝どれの野菜なども使っている。間引きの大根の葉を炒めてご飯のお供にするなど、普段口にする機会の少ない野菜を出すことができ、それを説明し食材を使い尽くすことなど食育に役立っている。子供が多く、ストレスがあったり引きこもりであったりなど、問題を抱えた親子も多数来ている。また、親子同士と一緒に食事をして、お母さんのストレス発散もできているようだ。また手洗いの励行など衛生面の啓蒙もうまくいっている。高齢者も毎回数人来ていただいている。

◆これからの取り組み

中高生の利用が少なく、孤食の防止や夜間の居場所作りという目標を達成できていない。しかし、長く続けることによって、親子で来ていた子供が中高生になった時に来てもらえると良い。



団体名 峰町子ども食堂みんなでごはん

会員数 28人

設立 平成29年2月

団体の活動目的
活動実績

子供と高齢者の孤食、子育ての不安やストレスを、美味しいご飯と団楽で防止する。

持てる能力を活かして楽しむ、 認知力を落とさない

事業名 コミュニティカフェ 遊とぴあ

助成額

24万円

◆地域での課題

超高齢社会が更に進む中、元気な高齢者が地域で生きがいを持って活動できる場を創設し、いつまでも元気で助け合っていける地域づくりが要請されている。



◆基金事業概要と達成した成果

- 【①高齢者が参加意欲を持って、各々の特性を生かせる、多様なプログラムを用意し、参加を呼び掛け、月に延 100 名が参加した。
- ②認知症予防研修や予防体操を行い予防についての考え方等について理解を深めて頂いた。
- ③専門職による相談支援活動を行った。
- ④医療、介護、保健、福祉の専門機関等との連携を図り、高齢者・障害者・母子等の生活課題の早期発見や予防をして、お互いが助け合い、安心安全な地域生活が続けられるような情報提供をした。そして、専門職の相談が必要なケースは専門機関につないだ。

(左) 女性参加者が多い人気メニューの健康麻雀
(右) 映画鑑賞
(どちらも名店街会館)



◆これからの取り組み

- ①高齢者の「生きがいづくりや地域の仲間づくりの場を提案・提供する」等を継続する。
- ②認知症等予防講演会など専門職と連携し、情報提供・交換をする。高齢者同士が持てる特性を生かし、助け合い、語り合い、認知力低下を予防する。
- ③介護や障害サービス等の情報を伝え、必要な時に各々に合ったサービスの利用法やマッチングを図り、安心して生活し続けられるよう共に考える。
- ④高齢者でも地域に貢献できる事を実践していく。



(上段) 工藤千秋医師講演(新井宿特別出張所)、(中段左) 高齢者施設の選び方(名店街会館)・(中段右) 認知症予防講習会(文化の森)、(下段左) 年忘れ懇親会・(下段右) エンディングノートの書き方(名店街会館)

団体名 コミュニティカフェ 遊とぴあ

会員数 100人

設立

平成27年7月

団体の活動目的
活動実績

〈活動目的〉 高齢者や障がい者が住み慣れた町でいつまでも元気に生活出来るように、居場所を提供することを通して、生きがいづくり、仲間づくりの支援を行うとともに介護や障害等サービスの情報を提供し、予防等の普及啓発に務める。
 〈活動実績〉 「いきいき体操」「映画と紙芝居」「古布で小物づくり」「布あそび」「ぬり絵で絵画を」「健康麻雀」「ボールでリラックス」等の月例活動を実施(年間 142 回、延参加者 1,047 名)
 「エンディングノートの書き方」「認知症予防講演会」「高齢者住宅の選び方」「朗読・紙芝居・歌のつどい」「高齢者住宅の選び方」等のイベント活動を実施(年間 11 回、延参加者 160 名)

都会で炭焼き できる！

事業名

公園の剪定廃材を使った炭の生産と有効活用の試み

助成額

24万円

◆地域での課題

都会にも豊かな自然があることを発見！ この気持ちを出発点に樹木剪定廃材の循環事業を提案します。現在、大田区の公園から排出される剪定枝等の樹木廃材は有料で焼却処分されています。なんとももったいないことで、この剪定廃材をチップ化して炭を製造し、これに落ち葉を集めて作った腐葉土を混ぜることで良質の土壌改良剤をつくることができます。土壌改良材は、大田区の公園管理のなかで有効に活用していただくとともに、将来は園芸資材として市販することで収益性のある事業にすることも可能と考えます。これを、障害者就労支援施設における授産作業として行い、関係者がこれを支えることで公益性のある自然循環システムを都会の中に構築することをめざします。



◆基金事業概要と達成した成果

1. 就労支援施設への炭生産作業委託
29年度に引き続き大田福祉工場通所者のみなさんに炭を作ってもらいました。
2. 公園の池での水質浄化実験
新たに常設型ソーラー式水質浄化装置を開発製造し東鞆谷防災公園のピオトープ池に設置、水質浄化の効果を測定しています。
3. 平和島公園ストックヤードでの炭焼き開始
改良型炭製造装置を開発製造し平和島公園で炭焼き作業を始めました。
4. 花炭展覧会の開催
こらぼ大森情報交流室で花炭展覧会を実施、くすのき園通所者の花炭作品も一緒に展示しました。

◆これからの取り組み

1. 就労支援施設での炭生産作業を支援
受託加工及び自主生産作業として炭焼きを継続してもらえよう支援します。
2. 公園に炭を活用した自然循環の仕組みを構築
自主開発した煙の少ない炭製造装置を使って大規模公園の緑資源を活かす炭焼き活動を定着させます。作った炭は公園の土壌改良や水質浄化に使います。

炭製造装置（改良型）

花炭の展示（上）

水質浄化（下）

都市部で炭焼き作業を行うために煙が少ない炭製造装置を開発しました。今年からは平和島公園ストックヤードで炭を焼いています。



大田福祉工場通所者のみなさんとの炭焼き作業

障がい者就労支援施設の作業として手掛けることができるようになると「都会で炭焼き」がもっと楽しく、また意味のあるものに育っていきます。

団体名

特定非営利活動法人都会で炭焼きプロジェクト

会員数

20人

設立

平成27年11月

団体の活動目的
活動実績

公園の剪定枝廃材は、これを炭に変えることで多くの価値を生み出すことができます。わたしたちは、都会のなかにも豊かな緑があることに気づき、その緑を資源として自然循環サイクルを形成することができることを、この活動によって伝えていきます。これまでに炭焼き装置や水質浄化装置を独自に開発し炭を生産しています。作った炭は公園の土壌改良やピオトープ池の水質浄化に活用しています。

『くがらく』で落語を聞いて『苦が楽』に！

事業名 地域落語会『くがらく』の開催

助成額 24万円

◆地域での課題

新旧居住者間、自治会同士での交流が少ない久が原地域では、両者がオープンに交流できる場がないということが課題になっていました。地域住民の間にも、この街の良さを次世代に受け継いでいくため、多世代間で楽しく交流ができる場が必要との想いが強くありました。



◆基金事業概要と達成した成果

地域住民の交流を促進するため、「笑い」で地域の方を呼び込み交流できる場としての地域落語会を開催しています。

今年は更に地元商店会主催の『まちゼミ』にも参加。落語の楽しみ方を知って戴き、くがらくを通じて地元商店街に足を運んで戴くための足掛かりとしての活動を実施しました。大田区各地域で開催されている落語会を紹介したマップも作成し、来訪者に配布を致しました。

第15回、第16回 開催時の様子

落語ファンのお客様のみならず、最近では地元のリピーターの方にも大勢楽しんで戴いております。

◆これからの取り組み

『まちゼミ』をはじめとした地域主催のイベントにも参加、協力をさせて戴く中で、懸念であった地域の方々への活動の浸透も進んできました。今後は”大田区落語会マップ”の作成過程で繋がりができた各地域の落語会主催者さんとも連携し、地元で興した盛り上がりを区内の各地域に飛び火させる形で、「笑い」で繋がる交流の場を広げていきます。



第2回『まちゼミ』久が原 参加の様子

地元商店主さんが講師となる、『まちゼミ』に参加。落語の楽しみ方を知って戴く機会となりました。

団体名 久が原落語友の会『くがらく』

会員数 10人 設立 平成28年 1月

団体の活動目的
活動実績

『くがらく』は「落語を聞けば苦が楽になる」をモットーに、都心の寄席や演芸場に出向くことのできない方などに向けた地域落語会を年に数回開催しています。地域落語会という「娯楽の輪・地域の和」に加わりたいと思う人が、「思わず集まってくる場・行きたくなる場」にすることで、地域での孤立化・没コミュニケーション化解消を目指すことを活動目的としています。

こどもたちに音楽を！

事業名

こころに響く絵本つくっちゃお♪

助成額

24万円

◆地域での課題

【おうちで子育てしているママへ！】

待機児童の増加、核家族も増え、保護者達は共通の悩みをシェアできず、コミュニティに参加する手段を知らないまま過ごしてしまっている。そこで親子で揃って共有する時間、場所で音楽の本物の力を体感！また、絵本を通じて、絵本の題材のオリジナル楽器を親子で製作し、また音楽というツールで心のコミュニケーションを行い、心を外に向ける事を推進する。また、それを手助けする側の地域全体が見守る子育てのきっかけとなる一日を設けます。



迫力！打楽器コンサート

見たこともない大きい打楽器のコンサートとみんなの知ってる絵本とのコラボレーション。どんな音がするのか？



◆基金事業概要と達成した成果

【区内5公演 300名の

親子へ音楽を！】

絵本の読み聞かせと音楽のコラボレーション。また絵本の中に出てくるオリジナル楽器を作り、その楽器と共に見る、聴く、触る、そして作るという項目を加え、五感に響く参加型コンサートを開催しました。区内5公演全てで満員御礼キャンセル待ち状態で定員を超える300名の親子に音楽をお届けしました。



楽器を作って絵本の世界へ！

絵本に出てくる楽器を作ろう。ママと一緒に世界で一つのオリジナル打楽器、かわいくできたね！

◆これからの取り組み

【さらに多くの子供たちに音楽を！】

子育て支援施設と同じ分野の他施設への広がりを持ち、各施設や団体の参加人数、規模を広げることを目標としています。親子目線で、現代求められている保育の中でのイベントの在り方を追求し、多くの後援、協力を得て、充実したコンサート内容を確認。また”団体力”の底上げのため、人材育成はもちろんの事、団体の特色を広く大田区へ周知する活動も広げていきます。



本格打楽器体験！

プロが演奏した楽器をみんなもさわってみよう。みんなも上手に鳴らせたね！



団体名	NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと		
会員数	11人	設立	平成25年4月
団体の活動目的 活動実績	「子供たちにもっと生の音楽を」をモットーに東京芸大卒の池野ひとみを中心に結成。コンサートに出掛けにくい方たち向けに（乳幼児、その保護者、障害者施設、高齢者施設、乳児院など）本格打楽器を出張し、参加型コンサートを開催する。ただ聴くだけでなく、見て、触って、一緒に合奏したりと、気軽に本格コンサートを体験してもらうためワンコインコンサート中心に活動。これまでにのべ500か所、5万人に音楽を届けてきた。		

もっと認知症の事をオープンに！

事業名 オレンジ茶房「縁」

助成額 24万円

◆地域での課題

「認知症」が全国的に大きな社会問題になる中で、我が新井宿地域においても高齢化が進んでいる。当然年々、認知症に関する相談は増加しており、内容も深刻化しているのが現状である。

◆基金事業概要と達成した成果

そうした現状の解決の一助になれば、という基本コンセプトの元、当事業を開始したが、助成金を得たお蔭で様々な各種開催する事が可能になり、認知度が飛躍的にアップした。認知症に関する各種講座も適時開催した事により、地域での認知症に関する理解が進んだと感じられる。

◆これからの取り組み

認知症当事者の方の参加がまだまだ少ないと感じているので今後の課題であると考えている。秋から同じ会場で、「ケアラズカフェ」という、家族介護者の会を開催しているので、そちらともタイアップして事業拡大に努めたいと考えている。



*平成30年6月27日

大田区認知症支援コーディネーターの方による講座



*平成30年7月25日

高齢者バンド「きずなクリスタル」による演奏会

団体名 オレンジ茶房「縁」

会員数 10人

設立

平成29年5月

団体の活動目的
活動実績

認知症の方またはそのご家族、あるいは認知症全般に関心のある一般市民の方々を対象に、原則月1回カフェを開催して、認知症に対する理解や参加者同士の親睦を深めて頂く。

【地域で子育て！つながろう・発信しよう・居場所作ろう】

事業名 おおた まちと子育て はぐ組

助成額

24万円

◆地域での課題

出産後早期は、精神的にも物理的にも社会から『孤立』してしまいがちである。また、育児中でありながら介護の問題を抱えるケースもある(ダブルケア)。産後に孤立しない・孤立させないため、地域住民同士が「産後早期」の育児の現状について理解を深める必要がある。妊娠中、産後の人やその家族が、産後にどこに頼れば良いか居場所がどこにあるかなど、適切な情報提供をし、地域で子育てをしていくという機運を高めていく必要がある。

◆基金事業概要と達成した成果

概要:情報提供となるマップ作成や居場所となるような育児講座の定期開催を事業として行う。
成果:マップ作成には至っていないものの、協力団体同士お互いの強みや専門性を理解した上で、適切な相談先を紹介し合える関係づくりを行っている。たとえば、育児支援講座で出会った子育て中の女性が、介護についての悩みも抱えていることがわかり、助産師から介護職へとフォローを依頼した。また、新たな活動場所が一箇所増え、定期的に開催できるようになった。



◆これからの取り組み

居場所である育児講座が継続できるよう努める。また、連携団体同士が話し合える機会を増やし、お互い顔がみえる関係づくりを行う。また、互いの日頃の活動において抱えている地域の課題を共有し、適宜、相談・紹介し合う。育児講座の広報チラシ等には、協力団体で行える育児支援内容について掲載するなどして、地域で育児をする人への情報発信としたい。

写真タイトル

【大森西に新たな子育ての居場所ができた】
大森西、東邦大病院からすぐの場所で育児講座を開催することになりました。月に1回程度開催して、近隣の育児中の方が相談できたり、赤ちゃんとゆっくり触れあえる機会をつくっています。

団体名 おおた まちと子育て はぐ組

会員数 6人 設立 平成 29年 4月

団体の活動目的 目的：大田区内に住む子育て世帯が、孤立せずに地域で暮らしていけるように支援すること
実績：妊娠期～子育て期向け講座の開催による居場所づくり
シニア層や子育て支援者向け講座開催 等

いつもの暮らし しっかり防災

事業名 もしも・・・その時・・・ ―知って、備えて、繋がって―

助成額 100万円

◆地域での課題

気候変動や地球温暖化の影響によって、想定外の自然災害がおきています。災害時の安全性を不安に思う区民が41.7%、防災対策に力を入れて欲しいと感じている区民は54.7%です。防災対策への要望は5年連続で1位となっており、大田区内では深刻課題となっています。

◆基金事業概要と達成した成果

誰もが参加しやすい防災サロンを企画し、家庭内・地域内における防災意識と知識の向上を図りました。

- ・宿泊型避難所体験を開催しました。
- ・救急救命講座を開催しました。
- ・災害時の食やトイレの講演会を開催しました。
- ・乳幼児向け、高齢者向け防災サロンを開催しました。
- ・老人ホーム、マンションでの防災サロン開催も行いました。
- ・大田フェスタ、大田商い展にも参加しました。
- ・携帯トイレの各家庭への普及活動に力を入れて行いました。

◆これからの取り組み

- ・避難所体験を中学生との協働で開催できる様に系統だてていきたいと考えています。
- ・外国人向けのサロン開催に色々な問題が潜んでいる事が分かりました。町会や自治会と問題点の共有を行って、地域の防災訓練に生かしていきたいと思っています。



ドキドキ 避難所体験 大田区立松仙小学校にて
8月4～5日開催しました。防災マップ作成や缶詰ラ
ンプ・非常食体験、応急手当講習を行ないました。



大田区総合防災訓練に参加
羽田・調布・馬込の三地区で携帯トイレの普及活動を行
いました。



災害時のトイレ問題 9月15日 嶺町集会室にて
NPO 法人日本トイレ研究所所長 加藤篤氏を招き、
講演会を開催しました。

団体名 CONNECT (コネクト)

会員数 7人 設立 平成26年4月

団体の活動目的 活動実績

「防災・減災」を切り口に、まずは自分の命を自分で守る為の知識を持ち、更に積極的に地域と関わっていく事によって、地域が繋がり、防災力・地域力を高めていくことを目的としています。平成29年度スタートアップ助成金を受け、避難所体験や救命救急講習会を企画、運営をおこなっています。又、食に関する講演会や災害時のトイレに関する講演会も企画し、開催しています。特に携帯トイレの普及活動には力を入れています。

hana で友達 ♪ hana と友達 ♪

事業名 花でつながる未来の輪プロジェクト

助成額 104 万円

◆地域での課題

hanatomo では、今まで季節ごとの子ども企画や親子企画を開催してきましたが、毎回募集人数の2~3倍の応募がありニーズに年代に合った講座の少なさを実感しておりました。本来 hanatomo は伝統文化である華道を軸に活動しております。長い歴史と先師によって築かれた知識と技術の伝承や、草木によせる美しい心を育てる上質な環境を、全ての出来事を吸収する子ども達に与えることも大切と考えます。



◆基金事業概要と達成した成果

【今年度事業内容】

- ☆毎月1回地域花壇整備
- ☆6月保育付き多肉植物 & 手作り虫除けスプレー
- ☆7月わくわくスクール6校7講座
- ☆8月風呂敷花器作り & トロピカル生け花
- ☆11月 コスモス花摘み大会
- ☆12月針葉樹でつくるクリスマスリース
- ☆12月お正月しめ縄かざり
- ☆2月ひな祭りガーリー花玉づくり
- ☆3月アーティストと子ども達 FLOWER ART

子ども達との交流

夏のわくわくスクールをはじめ、様々な企画で子ども達への《華道》を中心とした企画をしています。地域花壇の整備では、満開になったコスモスを地域の方に開放し花摘み大会を開催しました。



◆これからの取り組み

今後の計画としては、今まで通り保育付き・子ども達対象・親子講座を企画していきますが、新たにシルバー世代の方優先の講座を企画中です。花や土に触れる事でイキイキとしていただき、制作する楽しさや達成感を味わっていただけるような講座を考えております。



多様な企画

子育て世代へは、保育付き講座年2回開催いたしました。2講座共沢山の応募があり、保育付き講座の大切さを実感しております。どなたでもご参加可能な講座では、クリスマスリースやお正月飾りを製作いたしました。

団体名 hanatomo

会員数 17人 設立 平成24年10月

団体の活動目的
活動実績

伝統文化である華道を広めたいが、中々敷居が高く敬遠されるのが現状です。華道だけでなく、園芸、アレンジメントから、若い方にも人気の苔アートなど、楽しく華の道を体験し、まずは花を身近に感じる所から興味を持っていただく事で伝統文化の継承に繋げていく事を目的とする。
小学校での夏のわくわくスクール・誰でも参加の季節や行事を取り入れたワークショップ・地域花壇の充実を対象とする。

うのき水辺の楽校・多摩川はおもしろい！

事業名

多摩川の自然と遊ぼう！自然から学ぼう！

助成額

176万円

◆地域での課題

身近な多摩川は多くの人々の願いや関係機関の努力により水質が改善され、多くの生き物・自然が戻ってきた。しかし、昔川で遊んでいたころの経験が途切れてしまい、子供たちが安全に川で遊ぶことが難しくなった。安全に川で遊ぶことの楽しさや水辺の動植物に対する関心を高め、学ぶ場づくりを、多摩川の水辺に住む区民の「地域力」を活かし、継続的に取り組む必要がある。

◆基金事業概要と達成した成果

- ① 4月から11月まで、7回の多摩川でのガサガサ体験・生き物調べや野鳥観察会を行い、多摩川の魅力的な自然と触れ合い盛況であった。参加者は、小学生302名、中学生14名、保護者231名で、合計547名(11月現在)。「普段できない事が、子供と一緒に体験できてよかった。」「地域でこのような良い環境があることをうれしく思う。」との声が寄せられている。
- ② 鶴の木地区各町会・青少対、各小中学校のポスター掲示やチラシ配布などの協力があり、区内の地域へ広がりつつある。参加者を学校別にみると平成29年度11校から今年度は新たに矢口西小、雪谷小、道家小、徳持小を加えた15校になった。
- ③ 動を支える地域のボランティアが増え、子供スタッフ、中学生ボランティアの活躍が頼もしくなってきた。
- ④ 『多摩川生き物図鑑』を只今製作中！この間の活動経験や子供たちの声を活かし、研究者・専門家の協力を得ながら、写真とわかりやすい説明で、この地域の多摩川の生き物がよくわかる。

◆これからの取り組み

- ① 中・下流域の「水辺の楽校」で生き物調べを行い、子供同士の交流を図る。
- ② 継続的運営を維持するために、事務局メンバーを広く募り、子供スタッフ、中学生ボランティアの育成を進める。
- ③ 活動の充実を図るため、地域に在住する専門家の協力助言を受け、内容の充実を図る。
- ④ 『多摩川生き物図鑑』の活用を始め、地域に密着した生き物資料・教材を開発する。
- ⑤ 財政基盤を確立するため、地域の企業・個人などからの協賛金等の募集を検討する



春の野鳥観察(多摩川台公園・丸子橋近く)
耳を澄ますと春の野鳥や水鳥の鳴き声が聞こえてきます。講師のわかりやすいお話ときれいな鳥たちの姿に楽しいひと時を過ごします。(4月21日)



第4回多摩川ガサガサ体験7月14日
ほら、こんなお魚採れたよ！
小学校1・2年生の親子180名が参加したガサガサ体験。ヌマチチブ、マハゼ、アユ、ウナギ、テナガエビ、モクズガニ、コオニヤンマのヤゴなどが採れて、大喜びでした。



採集した魚、エビなどの説明をする子供スタッフ
生き物に興味があり、小さいころから水辺の楽校に参加している小・中学生は、スタッフとして活躍しています。魚取りがうまく、大人顔負けの知識を持っています。

団体名

うのき水辺の楽校協議会

会員数

28人

設立

平成25年8月

団体の活動目的
活動実績

大田区鶴の木地区の多摩川沿岸で活動している団体と町会、大田区関係機関、国交省などの河川管理者が連携し、子供たちの自然体験や交流を通して、多摩川における良好な水辺環境づくりや自主的・主体的な環境教育を行うことを目的としている。具体的には、生き物調査(ガサガサ体験)、野鳥や植物・昆虫観察などの体験活動を安全面に留意しながら行っている。うのき水辺の楽校の活動の様子は、大田区報(平成30年3月21日号)やケーブルテレビでも紹介されている。

茶道って楽しい！

事業名 茶道で日本文化を体験しよう

助成額

124万円

◆地域での課題

- ① 子どもの居場所作り。また、想いやりの心と物を大切にする心を育成する。
- ② 空き家の有効利用
- ③ 国際交流事業の集客、告知拡散方法
- ④ 高齢者のニーズにあわせた企画
- ⑤ 和菓子離れの傾向を少しでも阻止する。

◆基金事業概要と達成した成果

【概要】：子どもの居場所作りとして「夏のわくわくスクール：茶道体験」は認知度が上がり、多くの子どもたちの楽しみの場となっている。毎年500名以上いることは団体の喜びと励みになっている。空き家を利用した日本文化体験（10回）は好評だったが、質料と集客可能な人数のバランスは悪く要検討となった。また、国際交流事業は良い企画だと評価はされているものの集客に反映されず引き続きPR拡散中。高齢者向けの茶道と着物をコラボした企画は満足度が高かった。区内和菓子屋の減少が止まらない昨今、和菓子作りと茶会を合体させた企画を開催したところ、非常に好評だったが、助成金があったからこそ実施できた企画ではあった。

◆これからの取り組み

観光客・在住の海外の方々に向けた魅力的な企画は準備済なので、拡散先をもっと拡大する。早めの告知を心掛ける。（そのためにも会場の使用確定が3か月前では遅いと感じる）告知に関して、今まで以上に募る。



【夏のわくわくスクール】10校の小学校へキャラバン。夏の熱さも気にせず、楽しく真剣に日本文化に触れる小学生。



【和菓子ワークショップ付き茶会】和菓子の魅力を再認識できた大変好評だったコラボ企画。

団体名 NPO 法人茶道キャラバン喫茶去

会員数 14人 設立 平成29年10月

団体の活動目的
活動実績

《活動目的》

この会は、茶道を体験することで、心安らぐ時間を共有し、物を大切に扱う心や、人を思いやる心の育成を図る。茶道の多面性を活かし、地域社会の文化および福祉の発展、社会教育の推進、子どもの健全育成、高齢者の健康維持などの公益増進に寄与することを目的とする。

《活動実績》H30年度 わくわくスクール10校、茶会開催3回、地域とのコラボ企画2回、他

おおたの魅力を子どもたちに、そして世界の人へ

事業名

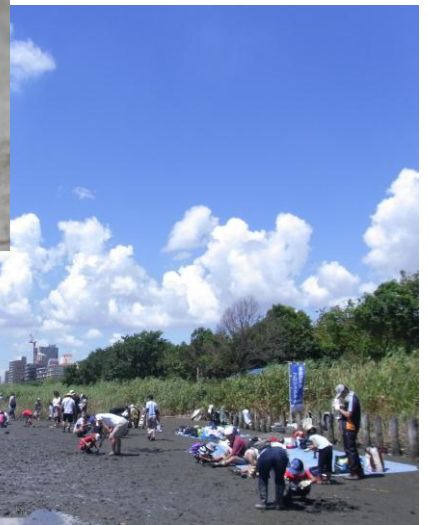
2020 オリンピック・パラリンピックへGo!
おおたの魅力PRプロジェクト

助成額

144万円

◆地域での課題

2020年オリンピック・パラリンピックイヤーをきっかけに、大田区の魅力を訪日する外国人に向け発信。そして、その活動を通じて大田区が世界に誇れる自然や技術を区民に改めて知ってもらい、何よりも子どもたちが誇りに思えるようになってもらいたいという願いを活動に。

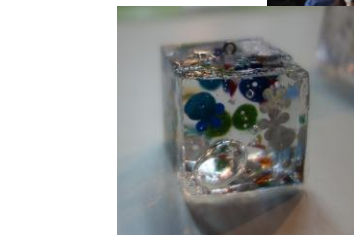


◆基金事業概要と達成した成果

子どもたちの学習に活用する多摩川河口干潟の生きものたちのパンフレットを、世界自然遺産候補地の沖縄県西表島の河口と比較して、その貴重さが理解しやすいものとして制作。また、ストラップ工作教室を通じて、大田区のモノづくりとその魅力を発信するための試作を区民活動団体と連携協働して行った。

多摩川大師橋干潟

干潟では、チゴガニ(写真)をはじめ多くのカニがくらしている。観察会の後には必ず全員で干潟や生き物に感謝とお礼のごみ回収を行っている。



◆これからの取り組み

完成したパンフレットを使って、一度は汚れてしまった多摩川河口の自然がどのようにしてよみがえり、そして今、いかに多くの生きものたちがくらす貴重かつ大切な干潟になっているのかを体験を通じて学ぶ野外教室、授業支援活動を実施していく。また、ストラップ制作を通じて知った大田の魅力あるアクセサリーづくりの情報を発信していく。

ストラップづくり教室

モノづくりのまち大田をイメージして、ストラップにネジやバネを入れたり、ハート、キューブ、スティックなどアイデアあふれる形が登場

団体名

一般社団法人 地域パートナーシップ支援センター

会員数

6人

設立

平成15年10月

団体の活動目的
活動実績

市民・事業者・行政相互の連携協働による地域、環境、防災活動などを企画運営から人材育成、団体設立までトータルに支援している。これまでに干潟の保全、カブトムシのすむ森づくり、観光まちづくりなどを実施してきた。最近では、地方都市との交流事業も積極的に手掛けている。

学びを楽しみ・つながり・支え合う地域づくり

事業名

出前「地域おしゃべり講座」、アクティブ・シニア交流会

助成額

59万円

◆地域での課題

国難と捉える「少子高齢化」により地域では、子育て・介護・防犯・防災等の課題が山積している。しかし、高齢化に伴う人手不足で主婦の70%が働きに出るようになり、地域の活性化のために活動する方が少なくなり、地域コミュニティがますます希薄化している。この課題を解決するには、アクティブ・シニアの力が必要。山積する課題を我が事として捉え「支え合い」社会づくり。

◆基金事業概要と達成した成果

年に3~4回18出張所管内を巡回して「地域おしゃべり講座」を開催し学んで知ることの楽しみを味わい、多くの方とつながる喜びを味わい、少しずつですが生涯学習の面白さを理解していただいている。これに加えて今回から区内で余裕をもって暮らしているシニア層の皆さんに地域参加をしていただくきっかけづくりの「アクティブ・シニア交流会」を開催して、地域活動への参加を促し地域課題の解決につなげていく。

◆これからの取り組み

ここに報告した3回の出前「地域おしゃべり講座」は終え、2月9日(土)に「おおたアクティブ・シニア交流会」を開催し、区内に病気でもなく介護も働くこともしていない元気なシニアが約26,000人居ると推計されている。この人たちに地域参加をしていただき山積する地域課題の解決の手助けをしていただき、ご自身も生きがいを持ち活動することにより健康を維持できる。

つながりと支え合いの「お互いさま社会」を実現

- ① 地域の名医から「在宅医療」について説明。
- ② 地域包括支援センターの役割について
- ③ 「折り紙」をおりながら「おしゃべり会」



歴史ある「嶺町地域」みんなで語ろう、地域の昔と今

- ① 六郷用水が流れるまち
- ② 御嶽神社の沿革と文化財
- ③ ふたりの講演を聞き、おしゃべりタイムで参加者と語り合った



我がまち池上のまちづくりとまちおこし

- ① これからの池上のまちづくり。
- ② 「寺町池上」のまちづくりとまちおこし。
- ③ 「イベント企画でまちおこしに貢献」おしゃべりタイム



団体名

おおた生涯学習世話人会

会員数

28人

設立

平成25年 5月

団体の活動目的
活動実績

私たちの団体は区の生涯学習リーダー養成講座修了生を主な構成員とした団体で、活動目的は大田区民への生涯学習の啓発・普及活動です。会員の多くは生涯学習リーダーとして区の事業にも参加している。その経験を活かし、当会は自主事業として区の助成をいただいて生涯学習を身近に感じていただくための出前「おしゃべり講座」を開催すると共に「アクティブ・シニア交流会」を開催し、シニアの地域参加を推進している。

子どもだけでなく、先生も喜ぶキャリア教育

事業名

「子どもの未来を創る『キャリア教育』」

助成額

65万円

◆地域での課題

現状では、小学校でのキャリア教育への取り組みが浅く、子ども達に多くの選択肢を与えることができていない現状・課題があります。

「学校も親も教えてくれない、教えることができないことを、現場で活躍するその仕事のプロが教える」それが我々の考えるキャリア教育です。

◆基金事業概要と達成した成果

小学校の担当教員と当団体で綿密な事前打ち合わせをし、子ども達の興味のある仕事、学校側が触れて欲しいと考える仕事をうかがい、厳選したゲストティーチャーをサポートチームとともに派遣します。

開催した全ての学校から、「話を聞く子どもたちの表情がいつもと違う」「来年度もぜひ開催してほしい」と評価いただいています。

◆これからの取り組み

本年度は、当初の予定（10校開催）に対し、12校の小学校（児童数927名）から開催の依頼があります。

大田区内全ての小学校で開催できるよう、運営側の充実、ゲストティーチャーの拡大を図ります。



「プロスポーツトレーナーとチアリーダー」
どちらのゲストティーチャーも、某プロ野球チームで活躍していたプロ。子どもたち先生どちらも目を輝かせながら聞いています。



「バラエティーに富んだゲストティーチャー陣」
左から、司法書士、漫画家、声の仕事（ナレーター、司会など）税理士、弁護士。

団体名

一般社団法人おた助っ人

会員数

8人

設立

平成22年11月

団体の活動目的
活動実績

「大田区は大田区の専門家が笑顔（ $\geq \nabla \leq$ ）にする！」を旗印に、大田区に縁のある多数の専門家が集まり、大田区及びその周辺地区の個人・団体・企業と連携のもと、専門家ならではの 방법으로地域力向上を図る。

大人には無料相談会を2か月に一度開催し、子どもには公立小学校でサマースクール、授業の時間を通じて未来を広げる活動を実施。またこれらの活動の担い手となる専門家の育成（スキルアップ・交流）のための勉強会を、2か月に一度（40名～50名参加）開催している。

みんなで心をひとつにした安全安心な街づくり

事業名

安全で安心な街づくりと平和で安全な「ふるさと」づくり活動

助成額

84万円

◆地域での課題

池上地区は、振り込め詐欺空き巣、ひったくり等の事件が多く発生しており、これらの事件等の防止を図り、地域住民の防犯意識の醸成を目指すとともに、歴史ある池上本門寺の内懐に抱かれた池上の街が子供達に「ふるさと」としての誇りを持てるように活動をし

◆基金事業概要と達成した成果

- ・毎週3回のパトロール活動(月1回の町会・毎週1回の地元企業との合同パトロール)
- ・子供達の健全育成活動の一環としての「池上安全安心まちづくり活動」
- ・通学時の安全見守り活動とあいさつ励行運動(月～金)
- ・子供防犯教室の開催(児童館等)
- ・環境浄化活動(街の清掃活動)
- ・歴史探訪(七福神めぐり等)
- ・年末の犯罪防止と子供の健全育成

◆これからの取り組み

池上が安全で平和な街であるように、各団体や住民の皆さんと協力して防犯パトロール活動を中心に活動し、かつ住民の防犯意識の醸成に務めると共に子供達の生まれ育った池上本門寺に抱かれた池上の街が、いつまでも「ふるさと」であるとの誇りを持てる街になるような活動を行っていく。



池上安全安心まちづくり展

小中学生の標語、作文等の展示及表彰式を実施し地域の方々の防犯意識の醸成と子供達の安全意識向上を計る



犯罪防止と子供達の健全育成餅つき大会

地域住民との絆の醸成と子供達の健全育成を図る

団体名

PSI 池上自主防犯パトロール隊

会員数

60人

設立

平成17年 5月

団体の活動目的
活動実績

【活動目的】池上地区は、振り込め詐欺やひったくり等の事件が多く発生しており、これらの事件等の防止を図るとともに歴史ある「池上本門寺の内懐に抱かれた池上の街」が子供達に「ふるさと」としての誇りを持てるような安全で安心な街づくり活動を目的としている。 【活動実績】・週3回の防犯パトロール活動(地元企業・町会と協力しての防犯パトロールも実施)
・安全安心まちづくり展 ・安全安心餅つき大会 ・子供達への各種防犯教室 ・子供の通学時の安全見守り活動(月～金) ・街の環境浄化活動 ・警察署、防犯協会、町会、商店会、地元企業との協力による各種防犯活動の実施

住んでいるまちをもっと楽しくもっと元気に

事業名 地域丸ごとケアのまちづくり

助成額 95万円

◆地域での課題

地域の課題は数多くあります。子育て支援、高齢者の見守り、商店街&まち工場を含む「まち」の活性化、災害対策、地域内に37もある介護系施設との連携などさまざまです。まちには障害者の施設も複数あります。地域内の多様な団体、施設が横連携する仕組みが必要です。



シニアまつりのボランティアの集合写真です。100名を超えるボラが参加、撮影時には半数が帰ったあとでした。大森8中の体育館で開催。730名が集いました。

◆基金事業概要と達成した成果

5月のこどもまつり 660名、6月のシニア元気まつり 730名、10月のハロウィンまつり 680名、累計で2,000名を超える住民が3回の大型イベントに参加。ボランティアの応援も、3回合計で250名を超え、地域での横つながりの広がりを感じています。「地域丸ごとケアのまちづくり」の仕組み作りが着実に進んでいるとの実感です。



こどもハロウィンまつりの会場の様子です。20を超える団体が結集、ブースを出展、630名の親子が集いました。こらほ大森の体育館で10月21日に開催。

◆これからの取り組み

11月～3月までの年度後半で、講座、討論会などの研究会を5回予定しています。「3回連続のまちづくりシンポジウム」「災害時高齢者生活支援講座」「パネル・ディスカッション 中高生の就職先と大森のまち工場&展示会」を企画しています。老人会、高校、商店、障害者団体などとのつながりも強めています。

団体名 おおもり・まちづくり協議会

会員数 20団体 設立 平成25年10月

団体の活動目的
活動実績

おおもり・まちづくり協議会は、大森西地域に活動拠点を持つ市民団体、事業所など20を超える団体が集まり「地域ネットワーク」を形成しています。毎月1回特別養護老人ホーム大森で「世話人会」と大森工場協会で「事務局会議」を開催。年3回の大型イベントを開催、研究会や講演会などを開催しながら、「まちをもっと住みやすく、もっと元気にする」ための活動を前進させています。今年度は、老人会、高等学校、商店街、まち工場などとの連携も進み始めました。

地域と在住外国人をつなぎ多文化共生を推進

事業名 ネットワーク型ホームステイ/ビジット

助成額 138万円

◆地域での課題

多文化共生を推進するため、単なる外国人のホームステイ受け入れに留まらず、EDO会の強みを生かして地域とのつながりを生み出します。

また、地域のつながりを促進するために区内の海外留学生、在留外国人を含めて英会話サロンのメンバーや、地域の町会・自治会、団体、商工業界との交流、見学、情報交換のための事業

◆基金事業概要と達成した成果

多文化共生に理解ある団体の関係者や一般区民にホストファミリーになっていただくことで多文化共生への理解を深める区民を増やすことを目標にします。成果として、今年度ホームステイ/ビジット事業に参加した外国人の人数が延べ123名(平成30年12月末現在)となっています。

◆これからの取り組み

ネットワーク型ホームステイ・ビジットの意義と効果を理解する団体の実績を積み上げていくことで、呼びかける団体を計画し、多文化共生に理解ある団体を増やしていけると展望します。対象として外国人留学生だけにとどまらず、在住外国人も含めた活動にすべく、人脈やルートを構築していけるという展望を持っています。資金面では、団体からの報酬や寄付が得られる付加価値のある活動を目標にしていきます。

6月3日 ユニバーサル駅伝
ユニバーサル駅伝に外国人留学生9人を誘い、参加協力、交流を行いました。



6月9,10日六郷神社祭り
外国人留学生等11人を誘い神輿担ぎなどに協力、交流しました。



10月22日交流サロン
香港人鴨志田フローレンスさんを招き、交流サロンを開催。



10月28日防災訓練
東六郷一丁目町会主催の防災訓練に外国人留学生ら27人を誘い、参加し、通訳などで協力。



12月22日買い物ツアー
大岡山北口商店街に、東工大留学生9人を招き、買い物ツアーを実施。ツアー後懇談会を行い、SNS投稿をしていただいた。



団体名 英会話同好会 from OTA

会員数 800人 設立 平成26年11月

団体の活動目的 活動実績

英会話同好会 fromOTAは、社会事業の英会話サロンと団体、法人向けの講師派遣を含む英会話教室の活動により、英会話学習を支援し、英会話の再学習や、仲間づくりの場を提供します。さらに①拡大の傾向にある多文化共生社会で、他国の人々の考え方、感じ方を理解し、多文化共生の一翼を担うことを目指します。ネットワーク型ホームステイ/ビジット事業では年間延べ100人以上の外国人留学生などを団体、商店街、法人に紹介し、交流を推進しています。

ポールdeウォークで大田区を楽しもう！

事業名

高齢者の介護予防・仲間づくりのための
ポールウォーク学校の全区的展開

助成額

200万円

◆地域での課題

超高齢社会を迎え、今こそシニアが主役の社会づくりのためには、シニアが積極的に各種の催しやスポーツに参加し日々新たな仲間と出会い、社会参加することです。ポールdeウォークは先に学んだシニアが身近なシニアに教えることで自然に健康の輪が広がるスポーツです。

◆基金事業概要と達成した成果

区の公募したポールdeウォーク教室修了者の自主的な継続と新たな仲間を増やすために大田区ポールdeウォーク楽校を区内18の各特別出張所管内に開校し「まちかどのスポーツ」としての定着を図りました。また、区内のシニアと健康・介護関係事業所等のスタッフ対象のリーダー養成研修会を六郷と嶺町の2か所で開催してリーダーの育成を図り、全地域で23回の無料体験会も開催しました。

◆これからの取り組み

今後大田区全区的な展開を図るうえで区内の18の特別出張所管内にさらにポールdeウォーク楽校を開校し、これまで研修を修了した指導者に積極的な指導参加を呼びかけるとともに、健康、防犯、防災をテーマに区民がいつでもどこでも二本のポールに気軽に触れられ、歩けるように取り組みたいと思います。



主催：一般社団法人木谷ウォーキング研究所 〒143-0016 大田区大森北2-6-1 サンプラザ竹虎 307
TEL:03-6821-3178 / FAX:03-5767-8832 mail: kitani-walk@tbz.t-com.ne.jp
共催：大田区ポールdeウォーク推進協議会 協力：城南信用金庫

区内各地の仲間とともに大田区を楽しみましょう。
4年間にわたる大田区ポールdeウォーク楽校によって、大田区を歩くと、上の写真のように調布地区、大森地区、蒲田地区、羽田糶谷地区それぞれに独特な歴史と文化があり、海あり、丘陵あり、平地ありの自然環境の中に素晴らしい発見が日々沢山あることがわかりました。ふるさと大田万才！

団体名

一般社団法人木谷ウォーキング研究所

会員数

670人

設立

平成24年1月

団体の活動目的
活動実績

「いつでも どこでも 誰でもできるみんなのスポーツ」ウォーキングを、年齢や体力に応じて誰もがいつまでも楽しめることを目的に6年前に発足しました。各地で研究会やシンポジウム、講演会、伊能忠敬になってみよう！星と地球楽校、OTAユニバーサルウォーク等を開催してきました。

中高生の居場所 地域交流と地域貢献を目指し

事業名

六郷ユースクラブ

助成額

140万円

◆地域での課題

中高生を取り巻く環境は現在大きく変化しています。以前のように、地域や家庭、年齢の異なる仲間たちの中で、さまざまな体験をしながら自分自身や社会を知っていくことが難しくなっています。そうした子どもたちと伴走すべく「中高生の居場所づくり」が地域社会に求められています。



◆基金事業概要と達成した成果

2017年4月より、六郷地域力推進センターを拠点にした「六郷ユースクラブ」を開催。まなび・交流・相談・体験活動ができる「中高生の居場所づくり」を目指して取り組みました。最近の活動では、日本将棋連盟と連携したワークショップ(将棋講座)を開催。通っている学校以外の子どもや地域のひとたちと将棋を通じて交流する機会を得ることで、関係性の豊かさと生まれ育った地域への愛着が芽吹くような活動をしています。

将棋を通じ、地域の人と多世代交流

日本将棋連盟および日本女子プロ棋士協会さんの協力のもと定期的にワークショップを開催。初めて会う人同士も日本の伝統文化である将棋を通じ、交流の輪が自然と生まれてきます。指しているときは、皆真剣そのものです。

◆これからの取り組み

定期的な居場所の拠点を設けたことで、中高生のコアメンバーを確立することができました。このメンバーが中心となって、地域の地縁団体との交流を深め、イベントや防災訓練の参加、さらには「六郷ふれあいフェスタ」のお手伝い活動が定例化し、中高生が地域に貢献する機会を得ることができました。こうした活動をさらに発展させていきます。



地域イベント(六郷ふれあいフェスタ)のお手伝い

居場所の拠点である六郷特別出張所で、毎年開催される地域イベント「六郷ふれあいフェスタ」の活動をお手伝い。今年は卓球コーナー・輪投げ・受付・お菓子配布などを担当。地域の子供たちと交流しながら地域貢献にも取り組んでいます。

団体名

特定非営利活動法人ユースコミュニティー

会員数

10人

設立

平成 24年 5月

団体の活動目的
活動実績

様々な困難を抱える子どもたち(小・中学生)に対して、地域の大人・大学生たちがボランティアで子どもの学習を指導。学力向上と進学をサポートしています。

学力格差を是正し、子どもの社会的自立を支援しています。また学習以外にも、他者との関係を育むためのコミュニケーションと社会性を培う活動も大切にしています。



地域力応援基金へのご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える新しい基金です。

1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。基金を活用して実施した事業は区ホームページで公開しております。是非ご覧ください。

2 寄付の方法

(寄付される場合には以下の3つの方法があります)

(1) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

▶ 寄付申込書を下記送付先まで送付してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、手数料はかかりません。

(2) 現金書留で郵送する

▶ 寄付申込書を同封の上、下記送付先まで送付してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

(3) 直接現金をお持ちいただく

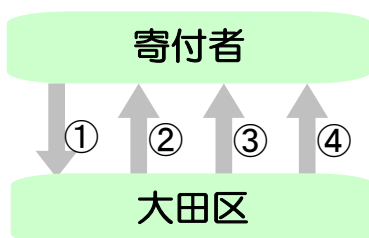
▶ 大田区役所6階地域力推進課にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただきます。

3 寄付申込書の入手方法

寄付をされる場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書が必要な方は、大田区HPからプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。

4 寄付の流れ

(※上記2寄付の方法(1)の例)



① 寄付申込書の提出 (郵送でも FAX でも構いません)

② 納付書の送付 (到着後、金融機関で振込)

③ 振込確認後、受領書・礼状を送付いたします。

④ 区報掲載 (掲載月は不定期です。ご了承ください。)

平成 30 年度 地域力応援基金助成事業活動報告書

発行 大田区 地域力推進部 地域力推進課 区民協働・生涯学習担当

〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

TEL:03-5744-1204 FAX:03-57441518